

2021年度学校評価シート(学校関係者評価)

武蔵野相愛幼稚園

外部評価委員 2名

内部評価委員 2名

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

適切である。

2. 評価結果の内容は適切であったか

概ね適切に評価されていると思う。保育者の研修・資質向上のところでB評価があったが、コロナ禍の中では限界があったと思うので、その中でオンラインによる研修会も実施されており、もっと評価していいと思う。

また、出納・経理の欄についても、評議員会でも説明を聞いているが説明も分かりやすくもっと評価すべきだと思う。

引き続き、感染症予防に努めながら、宿泊などの行事ができるようになってよかった。

入園説明会のために新たに動画を作成されたこともよかった。

毎月の『相愛だより』が園の取り組みをよく伝えていると思うので、評価できるとよい。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

預かり保育の需要が高まっている事が園児の数をみてもよくわかる。社会の状況が変わってきているので、預かり保育の充実などの対策が功を奏することを願っている。

取り組み状況に対する「評価と改善に向けて」の欄の記入が、「保育への思い」のような記載が多く（教育課程5・学校運営1. 3. 6・社会貢献2など）、もう少し具体的に振り返ることで、「2022年度の今後に向けて」がより明確になると考える。

また、教育課程7に関して、コロナ禍で、まだ安心安全とはいいがたい中、園レベルでも個人レベルでも、研修参加は困難な状況であることが推測されるが、特に個人レベルでの積極的な参加による資質の向上が図られるように願う。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

概ね適切である。近年「預かり保育」が幼稚園の生命線であるようにも思える。通常保育の担任をもつ保育者の負担にならない「預かり部分」の取り組みにさらなる充実を願う。

「今後に向けて」に関して、最も大切な「保育への思い」の中にある志や使命感がよく伝わってきた。一方で「心地よい場所であり、時の流れでありたい」ために何ができるか、「取り組む状況」と「評価・改善」において、もう少し具体的に振り返ることで、「2022年度の今後に向けて」がより明確になると考える。

「相愛」の精神での地道な保育活動が、今後も親子に寄り添ったものになるように期待している。

父の会としても、できることがあれば協力していきたい。